

昭和医科大学烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 真田 建史

〔編集責任者〕 広報委員長 真田 建史

〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 2 1 5 号

〔2025年7月1日〕

令和7年度春季公開講座の開催を通じて

精神科 医師 常岡 俊昭

5月29日「依存症と繋がり」をテーマに公開講座を行いました。多くの人に参加してもらうため、対面（100人）・オンライン（500人）のハイブリッドとしましたが事前申し込みで一杯となり一部の方をお断りせざるを得ず申し訳ありませんでした。

依存症は脳の病気で、好きの延長線上だけではなりません。自身の一番好きな食べ物をどれだけ食べ続ける事が出来るかを考えて下さい。僕はスイカが世界一好きな食べ物ですが、3食スイカだけと言われたら一週間で肉や魚も食べたいと言い出す気がします。一方で私たちはトイレには毎日何度も通います。映画のクライマックスでも漏らすよりはトイレに行きます。トイレには飽きないのです。なぜでしょう？

それは『トイレが大好きだからではなく漏らすのが辛いから』でしょう。人は好きなものは飽きますが、辛いことを避ける気持ちに飽きは来ないのです。

依存症当事者は依存対象を使って辛い経験や人生を乗り越えてきました。依存対象なく生きていくためには新しい生きる力・松葉杖が必要です。これは数か月の入院や外来での数分の診療では手にはいきません。医療ができるのは、本人たちがストレス処理能力を高め、自分らしく生きるために必要な場と仲間を紹介する事、新しい生き方への不安に対して背中を押す事くらいになります。今回は当院で背中を押された11人の依存症当事者・家族に一人9分という短い時間で話をしてもらいました。それぞれの場所に繋がって回復した多くの人たちの話を聞いて、回復できる場所は沢山ある、Aの場所がダメならBの場所がある、と治療に希望をもってくれたら嬉しいです。

もっと一人一人の話を長く聞きたかったという意見を沢山いただきました。各自助グループではOSMと言って自分たちの話を興味ある人誰でも聞ける場で話すイベントなどを行っています。オンラインでも当事者の声を聴くことができます。ぜひぜひたくさんの方の当事者・家族たちの声を聞いてみてください。

聞き方が分からないという方はぜひ主治医やスタッフに聞き方を聞いてみてください。



令和7年度春季公開講座 事後アンケート結果

事務課

令和7年5月29日（木）18時より、烏山病院にて「依存症と繋がり」をテーマに、春季公開講座を開催しました。

直接会場に参加された方は合計101名でした。オンライン参加者については500名の応募がなされました。

ネット環境の問題もあり、人数に変動はありましたが、常時300名以上の方が参加されました。

はじめに、当院精神科の常岡俊昭准教授より「依存症治療における医療の役割」と題して

当院の依存症治療における患者さんとの向き合い方、治療の内容について分かり易く説明頂きました。

続いて、「烏山病院から〇〇に繋がって」と題して、当院に受診している患者当事者、患者家族の中で自助グループや家族会等を利用している11名の方より、当院と自助グループ等民間支援団体との繋がりが回復に向けての大きな第一歩となった等、「繋がり的重要性」について実体験を踏まえてお話頂きました。



公開講座 会場の様子

また、講座のアンケートを実施いたしましたので、そのアンケート結果についてご報告いたします。アンケート回答者数は、166名（回答率39%）でした。

回答いただいた意見として、

- ・実際の当事者からの体験談を聞いてとても参考になった。
- ・当事者として参加したが、この講座で話を聞いて元気をもらえた。
- ・家族の立場からも話が聞いてとても参考になった。
- ・勇気づけられた。
- ・オンラインでも開催してくれたので、遠方からでも参加することが出来てよかった。
- ・アルコール/薬物/ギャンブルなど複数の依存症に関する事例を聞いてとても勉強になった。

などの前向きなご意見を多数頂戴致しました。

しかし、その反対に、

- ・一人ひとりの持ち時間が短く感じたので、半日など時間を取り、より深く話を聞きたかった。
- ・WEBで参加した際、音声聞き取りにくい場面もあった。

などのご指導も頂戴致しました。

秋にもテーマを変えて公開講座を開催する予定でございます。今回のご意見を活かして、皆様のQOLが高まるような、講座を企画したいと思います。

今後とも、何卒よろしくお願いたします。

新任・赴任職員 紹介

新任者

精神科 医師 こばやし かい 小林 開

令和7年度に入局させていただきました、小林開と申します。
浜松医科大学を卒業後、昭和大学江東豊洲病院にて初期研修を行いました。
少しでも早く、医局やスタッフの皆様、そして患者様の力になれるよう精進して参ります。
ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

作業療法士 あそう ひまり 阿相 日茉莉

4月から烏山病院に入職しました、新人作業療法士の阿相日茉莉と申します。学生時代に実習できていた烏山病院に、作業療法士として戻ってくる事が出来たこと嬉しく思います。
作業療法士の先輩方から多くのことを学び教わり、たくさんの患者さんと関わっていきながら、作業療法士として日々成長していけるよう努めていきます。
また、困難にぶつかりながらも楽しみながら作業療法を行っていきたいです。
ご指導よろしくお願いいたします。

作業療法士 とくなが ようすけ 徳永 陽介

今年度から烏山病院に配属されました、作業療法士1年目の徳永陽介と申します。
これから作業療法士として働くにあたって、患者さんとのコミュニケーションを大切にしていきたいです。
また、常に相手の立場になって支えることが出来る作業療法士になりたいです。
自己研鑽を怠らず、日々精進していきたいと思っております。

赴任者

精神科 医師 やまうち みさと 山内 美聡

精神科4年目の山内美聡と申します。
出身は愛媛県で愛媛大学卒業です。
昨年度は千葉県館山市にある田村病院で1年間勤務し、今年度より烏山病院のB3病棟とB4病棟を兼務で担当させて頂いております。
烏山病院勤務は1年ぶりで慣れていないこともありご迷惑をおかけするかと存じますが精一杯努めますので何卒宜しくお願い致します。

デイケア活動

S.K さん

火曜日の午後に行われている 就労準備プログラムについて紹介します。

自分にはどのような仕事得意・苦手なのか、仕事にはどのような性質があるのか、環境はどのようなところだとやりやすいのかを、考える機会にするために『備品整備』『メモを取る』などの様々な作業体験を行いました。

『備品整備』では、作業の指示が書いてあるメモが配られて、その指示はあえて曖昧に設定されていて、一緒にメンバーと協力して取り組みました。

『メモを取る』では、実際にメモを取って短時間で分かりやすいメモを取るにはどうしたら良いのかについて考えました。

以上の作業体験に取り組んで、自分で判断することが苦手なことに気づきました。

対処として、他者と協力したりアドバイスを求めれば良いということも学びました。

またメモを取る際、分かりやすくするためにメモに見出しを付けることが得意ということに気づきました。

様々な体験ができたので、このプログラムに参加して良かったと思います。(S.K)



◀ 5月 ▶ 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,670(8,161) 6,311(6,678)

◇一日平均患者数 279.7(272.0) 263.0(267.1)

◆診療実日数 31(30) 24(25)



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時

電話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。

ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座インスタグラムが開設されました。

随時情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします。



【編集後記】

今号もお読みいただきありがとうございます。

公開講座「依存症と繋がり」は夜勤中でしたが病棟でも放映されていたので観させていただきました。

自分と関わったことのある患者さんが力強く話す姿には本当に勉強させていただく事が多くありました。自分の回復の為だけでなく他者の回復為に頑張る姿が頼しかったです。

今年は早く梅雨が明けるとの報道もあり、気温も湿度も高くなってきましたがお身体に気をつけてお過ごし下さい。

広報委員 宮本 一磨

